

# 平成27年度 第3回

## 四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術を育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、有用な民間等の新技術の公共工事等への活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査及び事後評価等を実施するための『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を以下の要領で開催いたします。

### 記

#### 「平成27年度 第3回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成28年3月8日（火） 15：00～17：00

場所：サンポート合同庁舎 低層棟 2階 アイホール

#### 【審議事項 概要】

##### 1. 新技術の事後評価（7件）

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

#### <取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成28年 3月 1日

#### <問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長 湯佐 昭二 (087-851-8061 内線 3451)

○ 施工企画課長補佐 木下 功 (087-851-8061 内線 3453)

※○：主たる問い合わせ先

## ～審議技術の概要～

## ＜事後評価＞

## 『低圧用TLW形ダクタイトル鉄管(HK-10005-A)』

従来のT形管ダクタイトル鉄管の高強度で耐震性や耐外圧性能に優れた特徴をそのままに、製造コストを下げることで低価格化したダクタイトル鉄管。保証できる内水圧(保証水圧)は、1.0MPa。

## 『カナヒュームA型ワンタッチ耐震継手付き(KT-12004-A)』

ワンタッチ耐震継手を付けた金属樹脂複合管で、従来は、遠心力鉄筋コンクリート管で対応していた。管重量が軽量となり施工性が向上する製品。

## 『電極式自動運転水中ポンプ(CG-110036-A)』

自動運転回路内蔵の水中ポンプで、現場の水量に応じて必要な時だけポンプを運転することで、無駄な運転を無くしポンプの省エネルギー化を実現する製品。

## 『ツイン側溝(KK-060046-V)』

埋設管渠型の側溝。埋設型としたことで、側溝上面の導水溝によって排水性舗装層内の雨水を下方向に排水でき、高い集水能力を持つ。また、側溝本体が路面に露出しない為、有効幅員が拡大し、街渠ぎわの通行安全性が向上する製品。

## 『モノドレン(KK-980088-V)』

PETボトルからリサイクルされたポリエステルモノフィラメントを素材とした排水材である。従来の暗渠排水管と面状排水材の両方の機能を併せ持ち、各種排水工法においてその効果を発揮する製品。

## 『エンドレンマット(KK-980089-V)』

PETボトルからリサイクルされたポリエステルモノフィラメントを素材とした、ヘチマ構造体の排水材である。優れた透水性能で、各種排水工法においてその効果を発揮する製品。

## 『W2R工法(SK-050002-V)』

市街地などの歩道部等の側溝蓋の破損箇所や側溝高さの変更箇所において、W2Rカッターで既設側溝の側壁を内側より所定の高さに切断した後、Pc蓋を設置して側溝のリニューアルを図る工法。

技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/NewIndex.asp>

# 平成27年度 第3回四国地方整備局新技術活用評価委員会 議事次第

日時：平成28年 3月 8日（火）15:00～17:00

場所：高松サンポート合同庁舎低層棟2階 アイホール

## I. 開会

## II. 挨拶（企画部長）

## III. 議事

### 1. 平成27年度第2回新技術活用評価委員会の報告 等

#### 1-1 平成27年度第2回新技術活用評価委員会の報告等

### 2. 新技術の事後評価

#### 2-1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について

#### 2-2 低圧用TLW形ダクタイトル鉄管

#### 2-3 カナヒュームA型ワンタッチ耐震継手付き

#### 2-4 電極式自動運転水中ポンプ

### 3. 新技術の事後評価（再評価）

#### 3-1 今回事後評価（再評価）を行う技術について

#### 3-2 ツイン側溝

#### 3-3 モノドレン

#### 3-4 エンドレンマット

#### 3-5 W2R工法

### 4. その他

## IV. 閉会

# 「四国地方整備局新技術活用評価委員会」 設置趣旨書

## 1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS (New Technology Information System, 新技術情報提供システム) を用いて新技術の活用を推進してきたところでありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

## 2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略：順不同)

(大学 5名)

松島 学	香川大学工学部 教授 (構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)
吉田 秀典	香川大学工学部 教授 (構造工学、地震工学、維持管理工学)
伊福 誠	愛媛大学 名誉教授 (海岸工学、自然災害科学)
高木 方隆	高知工科大学システム工学群 教授 (国土情報処理工学)
渡邊 健	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授 (コンクリート工学)

(産業界 3名)

- (社) 日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長
- (社) 建設コンサルタンツ協会四国支部 企画部会 部会長
- (社) 日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

- 国土研究開発法人 土木研究所 材料資源研究グループ長
- 国土研究開発法人 港湾空港技術研究所 特別研究官

(整備局 8名)

- 四国地方整備局 企画部長 外7名